



「人と街への想いが繋ぐ沿線の物語」

南海沿線を舞台にした小説コンテスト 結果発表

応募総数272作品 「愛」に溢れた心あたたまる作品をご覧ください

南海電鉄（社長：遠北 光彦）では、「愛が、多すぎる。」を掲げて当社エリアおよび当社グループのブランドイメージ向上を図るプロモーションを展開しています。

同プロモーションの一環として、昨年「人と街への想いが繋ぐ沿線の物語」と題した小説コンテストを実施。当社のほか、総合ニュースサイト「マイナビニュース」、小説投稿サイト「エブリスタ」、そして審査員の有栖川有栖さんありすがわありすと今井雅子さんいまいまさこによる厳正な審査の結果、受賞作品を決定しましたのでお知らせします。

詳細は別紙のとおりです。



結果発表のポスター
(イメージ)

《参考》 小説コンテスト「人と街への想いが繋ぐ沿線の物語」実施概要

1. 募集内容 南海沿線を舞台に「愛が、多すぎる。」をテーマとした小説
2. 実施団体 南海電鉄、マイナビニュース、エブリスタ
3. 審査員 有栖川有栖（小説家）、今井雅子（脚本家）
4. 募集期間 平成29年9月15日～11月13日
5. 選考方法 南海電鉄、マイナビニュース、エブリスタおよび審査員が選考

「人と街への想いが繋ぐ沿線の物語」受賞作品決定について

1. 応募総数 272作品

2. 受賞作品

(1) 大賞 君にとどけ-Lonely whale- (作者：lime)

《選評（抜粋）》

有栖川有栖 個性的な声にコンプレックスを抱いた少女が、ある人との出会いをきっかけに自分の道を見つける物語。すべてがスムーズには行かず、つかえながら前に進む点にリアリティを感じます。〈52ヘルツのクジラ〉というキーワードがとても効いていて、はるか昔に思春期を過ぎた私も心に刻みました。

今井雅子 声を発することに臆病な主人公と仲間が届かない52ヘルツで鳴くクジラというモチーフの組み合わせと、言葉のひとつひとつを丁寧に選んだ品のある文体があいまって、孤独な魂が静かに響き合うような独特の世界観を作り上げています。「南海」電鉄小説らしく、海を印象的に登場させ、クジラのイメージと結びつけたところにも、作者のセンスを感じます。

(2) 準大賞 たずね人 (作者：いみず)

(3) 入賞 最後に最初の、相聞歌 (作者：霧野一)
31文字の日常 (作者：ちょりん)
そうして、僕はラピートに乗る (作者：にやもにん)

(4) 佳作 i が、多すぎる。 (作者：こうやらんぷ)
さやま遊園の妖精 (作者：逢坂よしひろ)
白鷺ピクニック (作者：山田名草)

※受賞作品はすべて「愛が、多すぎる。」WEBサイト (<http://www.ai-nankai.com/>) に掲載。また、大賞作品のみ「マイナビニュース」 (<https://news.mynavi.jp/>) においても掲載しています。

《参考》 審査員プロフィール



有栖川有栖

大阪市出身。1989年『月光ゲーム』でデビュー。『マレー鉄道の謎』で日本推理作家協会賞、『女王国の城』で本格ミステリ大賞、『幻坂』で大阪ほんま本大賞を受賞。近著に『狩人の悪夢』『ミステリ国の人々』など。



今井雅子

ラジオドラマ「雪だるまの詩」が第26回放送文化基金賞ラジオ部門本賞を受賞。テレビ作品に朝ドラ「てっぺん」「昔話法廷」「おじゃる丸」(以上NHK)など。2018年1月に映画『嘘八百』が公開。大阪府堺市の堺親善大使。

以上